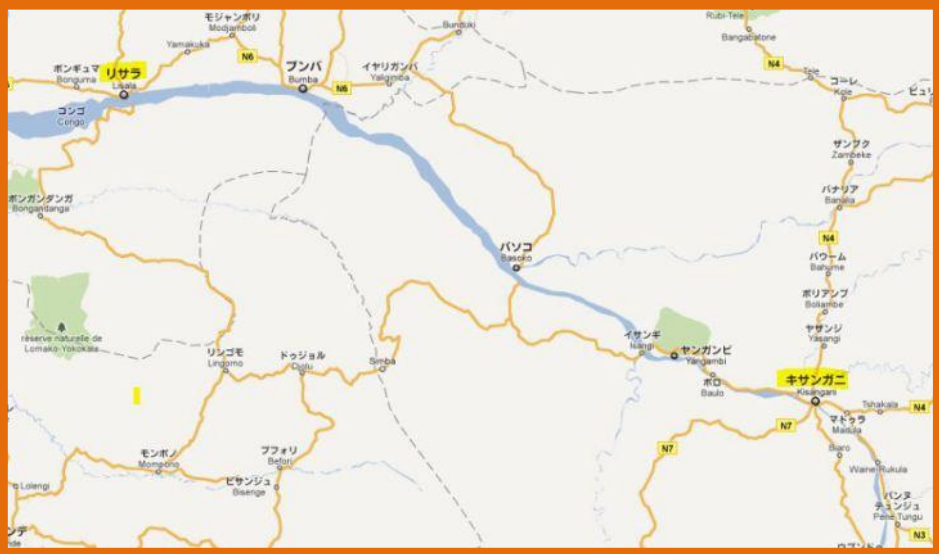
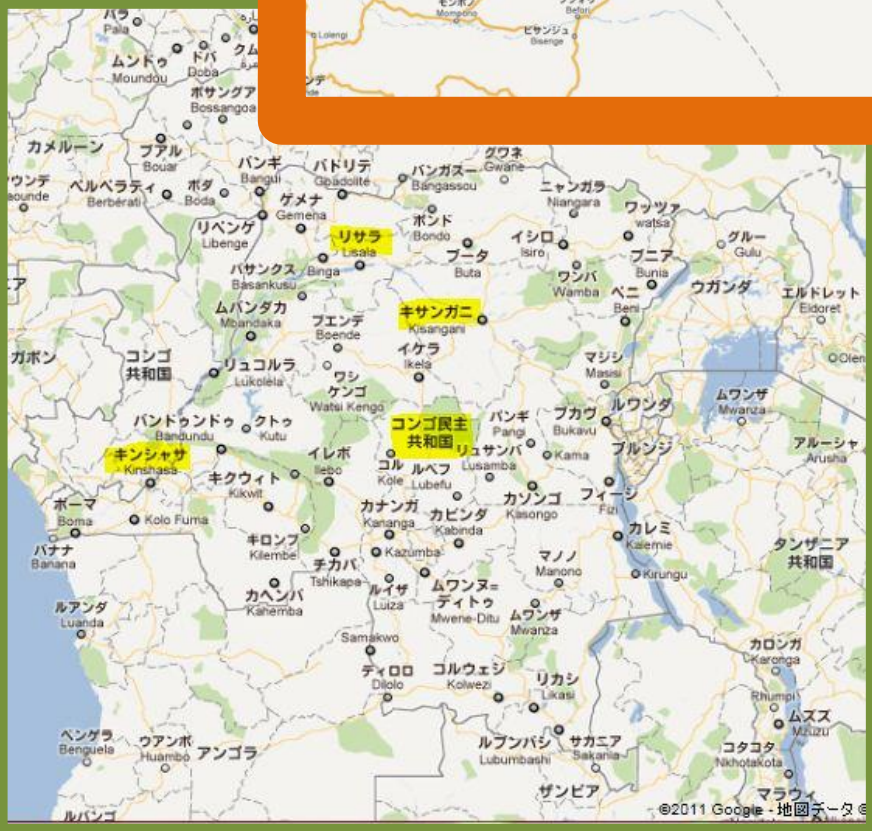
特集「コンゴ河の船旅」～1984 年のアルバムより～

27 年前の若かりしときの思い出です。
今は亡き友人と、アフリカ大陸横断の途中で、コンゴ川（ザイール川)を中流のリサラからキサンガニまで 5 日間かけて旅をしました。沿岸の人々にとって、コンゴ川を 2 週間に一度通る船が唯一の文明との出会いの場所ということもあり、丸木舟がひっきりなしに、船に接岸していました。たまには過積載やこぎ方が下手で、ひっくりかえりせっかく物々交換で手にしたせっけんなどの「ぜいたく品」を失ってしまった人たちも目にしました。船には商人たちも乗り込み甲板で店を開いています。
さながら動く熱帯雨林のデパートといったところでしょうか。

旅のルート

コンゴ川の流域面積と流量はアマゾン川に次いで世界 2 位であり、流域の熱帯雨林もアマゾン川に次ぐ広さを持つ。
（Wikipedia より抜粋）





キサンガニ（Kisangani）は、コンゴ民主共和国の北東部に位置する交易都市。コンゴ川（ザイール川）中流にかかるボヨマ滝の下流北岸、標高 415m に位置する。人口は 41.8 万人。
（Wikipedia より抜粋）

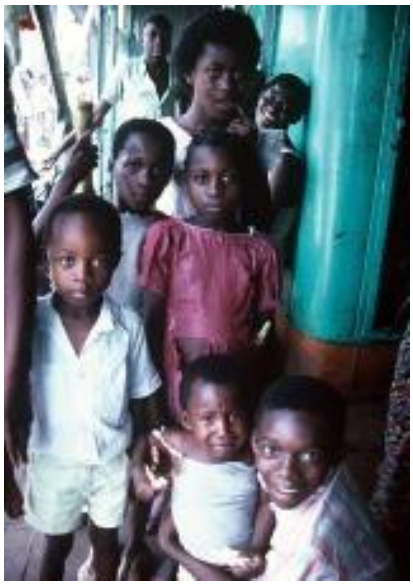
リサラからキサンガニへ

船は客室などのある本船（真ん中の白い部分）の他に４つほどのエンジンを持たない船体が前後左右だったと思うが、繋がれていて全体としてはかなりの床面積をもつ移動体になっている。

船の光景。

コンゴ川運行船に向かう丸木船。運行船の方が速度が速いので、上流からねらいをつけて、タイミングを合わせなければ、船にたどりつけない。沿岸の人々にとって、生活必需品を手に入れるまれな機会。オールを漕ぐ手にも力が入る。

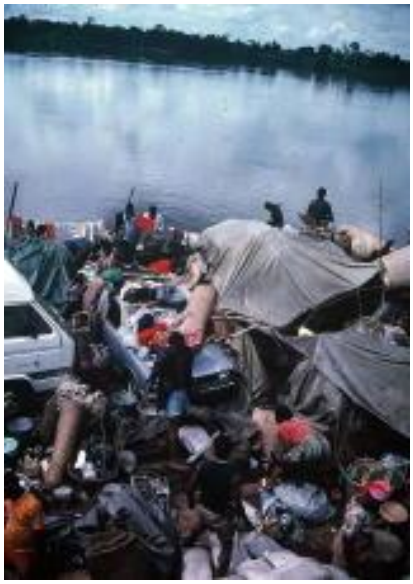
なまずのような魚や動物の燻製が多かった。沿岸の村から石鹸などとの物々交換でもたらされる。



船旅を続ける家族。

サルの燻製。重要な食糧。

船への接岸に成功し、繋がれている丸木船。



船上の光景。商品がいろいろな店を開いている。自動車なども船で運ばれる。

キサンガニからルワンダへ

鬱蒼とした巨木の原生林の中を、赤土の道は続きます。

大型トラックの荷台へのヒッチハイク。

これは小型のトラックの荷台に乗っての移動。真ん中に座る日本人はイチさんという名のミュージシャン。キンシャサのマトンケという下町で半年、ミュージシャン達と暮らし、ケニアにもどる途中に知り会った。治安は悪いそうだが、ほとんど無防備で暮らしていたとのこと。ギャングたちと仲良くしていると、不思議と、襲われないそうだ。
イチサン、旅の間中、ずっとドラムのスティックをたたき続けていた。

こういうトラックもありました。振り落とされないようにしっかりロープをにぎる。

大型トラックには、荷物が満載され、その上にされに人が乗る。雨が降ると、道を保護するために通行止めになるため、荷台で雨にぬれることはあまり内。原生林の中で、風もあるので暑さを感じることはなかった。

投稿者・撮影者名　牛尼恭史

株式会社フランシール
〒171-0021 東京都豊島区西池袋 3-33-6
菊池ビル 3 階
TEL：03-5985-4875 / FAX：03-5985-4876
http://www.franchir-japan.co.jp/index.html

AFRICA NAVI 特集　2011 年 9 月 26 日

アフリカ・ナビではアフリカに関する様々な情報を発信しております。
当ホームページの記載内容については、無断で転載することを禁止します。

Copyright ©2012 Franchir Co., Ltd.